

オススメ本の紹介

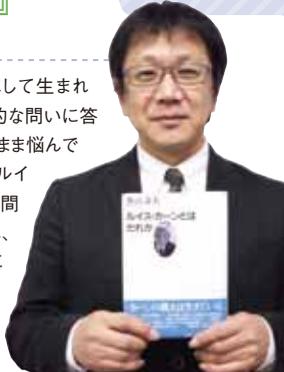


『ルイス・カーンとはだれか』

香山壽夫 著/王国社

建築は、どのようにして生まれるのか。その根源的な問いに答えを見つけれないまま悩んで

いた若き日の著者が出会った建築家ルイス・カーン。心の底から湧き起こる空間創造の瞬間を追い求めてカーンを訪ね、そこでのカーンとの心躍る体験をもとに語られる空間創造への言葉の数々。建築家を目指す学生に、ぜひ読んでほしい。



建築工学科
向山 徹 先生



『実験医学序説』

クロード・ベルナル 著、三浦岱栄 訳/岩波書店

C.ベルナルは、内部環境（内分泌）説を唱え後のホメオスタシス理論に影響を与えた

実験医学の祖である。明治維新の3年前1865年に刊行された【実験医学序説】は、3編から成りその第1編 実験的推理（帰納と演繹、実験的規範の原理他）は圧巻である。科学倫理を修得し大学人となる広島工大生必読の1冊として紹介したい。



食品生命科学科
吉本 寛司 先生



『てんのじ村』

難波利三 著/実業之日本社

「ええ〜まいどお喧しいチンドンマン。道路上で小さなショーを行います。これがホンマのロードショー」

かつて大阪ナミナにおました芸人たちの貧乏長屋。掛け値なしの実話を紡いだ小説だ。戦中戦後の物資不足。ただでさえ収入の少ない極貧芸人たち。すべてを笑いに変える運しき、肩を寄せ合う暖かさが伝わります。ほっこりしまっせ・・・



知的情報システム学科
安部 伸治 先生



『雲の中では何が起きているのか 雲をつかもうとしている話』

荒木健太郎 著/ベレ出版

空に浮かんでいる雲がどのようにしてできるのか、大雨や突風な

どの気象災害をもたらす雲にはどのような特徴があるかについて、ゆるキャラを用いてわかりやすく説明しています。気象について興味はあるけれど、複雑な数式による説明が苦手という人にとって、非常に読みやすく書かれた1冊です。



地球環境学科
田中 健路 先生



『こっそりさっそり まちをかえよう。』

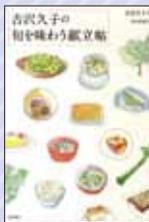
三浦文典 文、斉藤弥世 絵/彰国社

日常の些細なことや子供の頃の自由な発想を基に、43の

アイデアで自分たちのまちを、こっそりだけごっそり変えていこうという作戦が書かれた本です。ポップなイラストで描かれているので、子供から大人まで、わくわくしながら読むことができます。日頃忘れがちな小さなことが意外と大切で幸せなことだと思える1冊です。



環境学専攻
馬場 大志 さん



『吉沢久子の旬を味わう献立帖』

吉沢久子 著/筑摩書房

材料名と作り方が並ぶだけのレシピ集ではありません! 95歳の著者の食人生、お店の味や

家族の感想、お友だちとの交流などからヒントをもらい、そのエピソードとともに旬の献立が満載! この1冊さえ読めば、旬な「うちの味」ができちゃいます。この春から1人暮らしを始める人、趣味で料理を始めようと思っている人にオススメです。



生体医工学科
良海 枝利 さん



『TED 驚異のプレゼン 人を惹きつけ、心を動かす9つの法則』

カーマイン・ガロ 著、土方奈美 訳/日経BP社

以前「魅力発信グランプリ」(*)に参加した際、企業の魅力を上手くプレゼンするための参考になればと思い、この本を手に取りました。9章にわたってプレゼンテーションの心得が書かれており、非常に参考になりました。なお、当イベントでは敢闘賞を受賞しました。これからプレゼンを行う人は読んでおいて損はないと思います。



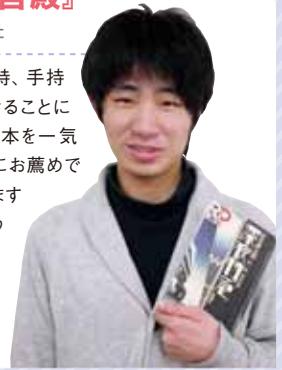
知的情報システム学科
杉本 稜 さん



『深夜特急 第1便 黄金宮殿』

沢木耕太郎 著/新潮社

何か空虚さを感じた時、手持ち無沙汰の時、生きることに執着したい時、夜に本を一気に読んで何かしらの爽快感を得たい時にお薦めです。主人公は特に目的もなく旅をしています。私たちが海外へ行ったとき、どのような心構えでいけばよいかを教えてください。私たちがどこからきて、どこへ向かうのか、ヒントになる1冊です。



知能機械工学科
川角 光毅 さん

※「魅力発信グランプリ」とは、社団法人中国地域ニュービジネス協議会が主催し、学生が企業を訪問取材し、その企業の魅力をまとめたものを、学生・大学関係者・取材先企業の方の前で発表するコンテスト形式のイベント。